

4 - 6 伊豆半島におけるラドン観測 (Ⅲ)

Radon Observations in the Izu Peninsula (Ⅲ)

東京大学 理学部

脇田 宏・中村裕二・佐野有司

Hiroshi Wakita, Yuji Nakamura, Yuji Sano

Faculty of Science, University of Tokyo

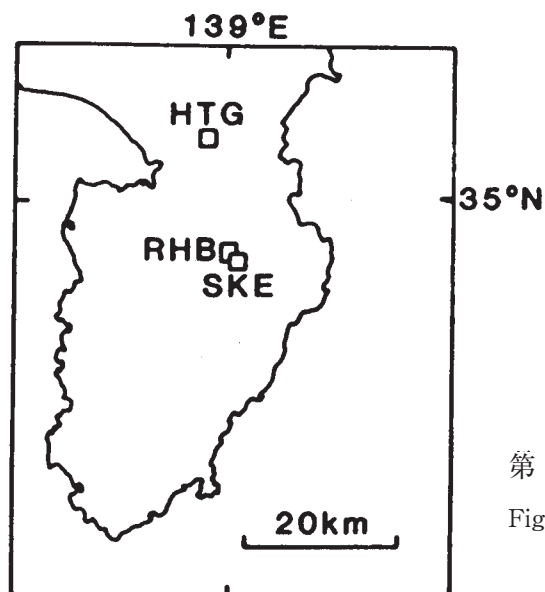
前報¹⁾にひきつづき、伊豆半島における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1983年11月から1984年11月まで)を報告する。

観測地点は第1図に示す函南(HTG)、中伊豆(RHB)、中伊豆(SKE)の3点である。第2図は各地点における連続観測の記録で、1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均値を、この期間の平均値に対する相対値で示したものである。

8月中のSKEの欠測は計測器の交換によるもので、以後感度は約10%増加した。短周期の変動は、HTGが大きく、RHBとSKEで小さい。RHBで見られる冬崩(1月~3月)の異常変動は、これまでの記録にもみられ、原因について今後も検討を加える必要がある。

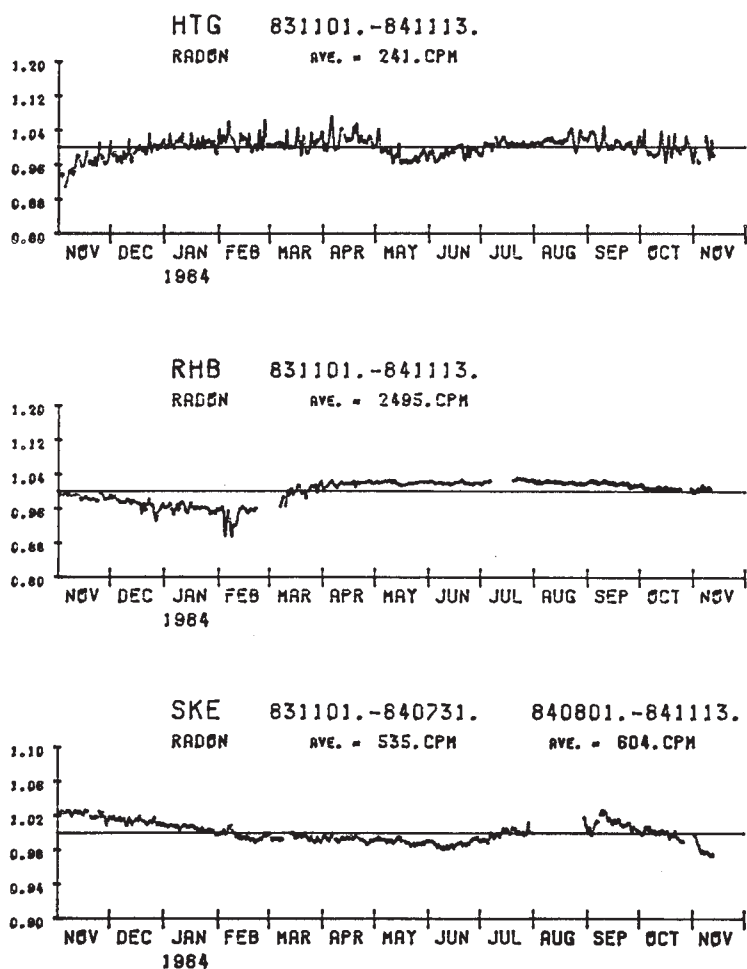
参 考 文 献

- 1) 脇田 宏・中村裕二・佐野有司:伊豆半島におけるラドン観測(1983年), 連絡会報, **31** (1984), 246 - 250.



第1図 伊豆半島の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Izu Peninsula (HTG: Kannami, RHB: Nakaizu, SKE: Nakaizu).



第2図 HTG (函南), RHB (中伊豆), SKE (中伊豆) における地下水中のラドン濃度の変化 (1983年11月 - 1984年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration of groundwater at HTG (Kannami), RHB (Nakaizu) and SKE (Nakaizu). (November, 1983 - November, 1984).